

### 【Khaṇḍana bhava-bandhana】解説③

バーシュワラ バーヴァ シャーガラ チラー ウーンマダ プレーマ パタール

#### 3. Bhāsvara bhāva-sāgara chira-unmada prema-pāthār

とても明るい 恍惚 海 いつも 狂う 愛の 海

バークタールジャーナ ジュガラ チャラナ ターラーナ バーヴァ パール

#### Bhaktārjana jugala-charaṇa (×2) tāraṇa bhava-pār

信者たち もらう 2つ 足(避難所) 解脱 世俗 渡る

#### <訳>

あなたは気高く輝く愛の大海。恍惚の愛の波となって常に打ち寄せられる。信仰の拠り所であるあなたの貫き御足は、船となって、輪廻の大海を渡して下さる。

#### <内容>

シュリー・ラーマクリシュナはとても気高く輝く、愛の大海。恍惚の愛。その愛の海に深く沈めば、我々はあなたの恩寵で束縛から解脱できる。あなたの御足は我々信者たちの避難所。世俗の海を渡して下さる。

#### <語句解説>

Bhāsvara: 明るい ※1

bhāva: 霊的ムードの一つ。恍惚状態。 ※2

sāgara: 海 ※3

chira: いつも

unmada: mad 狂う (神の愛で) ※4

prema: 愛 (神様への愛と人間への慈愛) ※5

pāthār: 海 ※6

Bhaktārjana: Bhaktā (信者たち) + arjana (もらう)

jugala: 2つ

charaṇa: 足 (避難所のシンボル) ※7

tāraṇa: (束縛から) 解脱

bhava: 世界・世俗 (世俗の海)

pār: 渡る

## <注釈>

※1 シュリー・ラーマクリシュナはサットワ的でとても明るく輝いている。ラジャス的タマス的だと暗い。ラジャスとタマス（例えば寝ること）は少しないと生きていくことができないので必要だが、シュリー・ラーマクリシュナは99%サットワ的性質なのでとても純粋。

スワミー・トゥリヤーナンダジは、シュリー・ラーマクリシュナが癌にかかる前の体がとても明るく輝いていたという。また直弟子達はみな体が輝いていた。

## ※2

[バーヴァ]の5つの状態（神と自分の関係・振る舞い attitude）

①シャンタ・バーヴァ Shanta Bhava：神は父。私は子供。

神は大きく偉大で私は小さい。神は遠い存在。

シャンタの本当の意味は「静か・静かな人」。シャンタの中に持ち主という意味も少し入っている。

シャンタがないとシャンティになれない。もし怒るとシャンタではなくなる。

キリスト教、イスラム教では神は偉大で遠い場所に存在するのでシャンタ・バーヴァに属する。

②ダッシャ・バーヴァ Dasya Bhava：私は神の召使。Master と Servant の関係。

一生懸命持ち主のために働く。①より神と自分の関係が少し近い。ラーマとハヌマーンの関係。

③サクキヤ・バーヴァ Sakhya Bhava：私は神と友達。

神と私は同じレベル。とても近い存在で仲良し。

クリシュナとアルジュナの関係（サカ）。

④バッサリヤ・バーヴァ Vatsalya Bhava：神は私の子供。息子。

私は大きく強く、赤ちゃんは小さく弱い。私は神より上の存在。

ヤショダ（クリシュナの母）とクリシュナの関係。

私がお世話をしないと赤ちゃんは何もできない。

そしていつも親は赤ちゃんの事を考えている。

⑤モドゥーリア・バーヴァ Madhurya Bhava：

恋人。普通の恋人ではなくもっと深い関係。

モドゥーリア・バーヴァの中には①～④の全ての関係が含まれているので最高のバーヴァ。

\*①→⑤にいくに従って神様と自分の関係はもっと近くなりもっと深くなる。

シュリー・ラーマクリシュナは、この5つの信仰の態度をすべて経験した。

## [別のバーヴァ]

またシュリー・ラーマクリシュナ別のスピリチュアル・ムードも色々ある。ある時はクリシュナのムード、ある時はマザー・カーリーのムード、マザー・ドゥルガーのムード。シュリー・ラーマクリシュナはヴィシュヌ派の修行をしている時はクリシュナのバーヴァが出てきて、シヴァ派の修行をしている時はシヴァのムード、ヴェーダーンタの修行をしている時はギャーニのムード、キリスト教の修行をしていた時はイエスのムードが出てきた。これらのムードは全てバーヴァ。

福音の中でシュリー・ラーマクリシュナは、神の化身シュリー・タイチャニヤの心のムードについても、ご自分と同じ3つのムードがあると言っている。

(「ヴィシュヌ宗派の信仰者の3つの状態」と言われているもの)

①**バイヤダシャ (Bahyadashā)** : バーヤが「外」、ダシャが「状態」という意。意識(心)はいつも外に向いている状態。信者は神様を礼拝し、歌うことも踊ることもできる。

ゴウランガは「ニタイヤママタハティ **nitai amar matahati**」という歌詞の歌を歌って踊っていた。

②**アルダバイヤダシャ (Ardha-Bahyadashā)** : アルダとは「半分」という意味。心は50%外で50%中に向いている状態。

ゴウランガは「マタハティ マタハティ」とだけしか歌えない。マタ(狂った)ハティ(像)とは、神様への愛がとても強いので狂った像のようだという意味。

③**アントルダシャ (Antardasha)** : アントルは「中」。心は100%中に向いている深い状態。

ゴウランガは、「マタハティ」の「ハ」を聞いただけで意識が無くなり、歌も踊りもできない。

☞「ラーマクリシュナの福音」勉強会 第3回 (2014年7月15日)

※3 シュリー・ラーマクリシュナの中に様々なバーヴァが海のように現れているので「バーヴァ・シャーガラ」と表現している。

「バヴァ・シャーガラ・ターラナ・パーラナヘー」という有名な歌があるが、その「サーガラ」の意味も同じ。

ガンガーが海に合流する場所はガンガー・シャーガラという巡礼の場所。

※4 世俗的な人々は女性やお金に **mad** (狂った状態) になります。シュリー・ラーマクリシュナは神の愛のために **mad** になっている。

※5 神様に対する愛は海のように深く無限

シュリー・ラーマクリシュナその他、イエスの中にも、ムハンマド、シュリー・チャイタニヤの中にも神様に対する愛があったが、お釈迦様の中には無い。

※6 「海」は「無限 infinite」のイメージなので、サンスクリット語では色々表現があり何度も出てくる。空も無限のイメージとして使われることが多い。

※7 インドの伝統的な挨拶で、お坊さんや神様に敬礼する時は足にタッチする。この場合は、足だけの意味ではなくその方のシンボルで、信者たちの避難所という意味。シュリー・ラーマクリシュナは信者たちを守り、導く。